すこやか けんこう

認知症について

問 長寿介護課長寿支援係　☎内線 176

認知症は脳の機能が持続的に低下し、日常生活や社会生活に支障を来している状態を指します。
厚生労働省の推計では、2015（平成 27）年時点の認知症有病率は高齢者人口の 15.7%とされており、全国では 517 万人、松浦市では 1,230 人が認知症を有していると推測されます。2025（平成 37）年には高齢者人口の 19.0%になると推計され、今後ますます認知症の人は増えていくことが予測されます。

○自分自身や家族など認知症が気になる時は…
認知症の早期発見・診断・治療はとても重要です。認知症の初期症状は、治る認知症（脳血管の障害などによるもの）の場合や認知症と似た別の病気の場合があります。また、早期に認知症に気づくことができれば、予測される症状の進行に合わせた介護サービスの利用や生活について、事前に検討することができ、不安の軽減につながります。
認知症が気になったときには、まずはかかりつけ医に相談しましょう。介護サービスや生活上の心配事などは、長寿介護課（地域包括支援センター）へご相談ください。

○認知症になっても暮らしやすい地域となるために…
認知症は身近な存在です。認知症になっても誰もが安心して生活できるようになるために、地域全体が認知症の症状について理解し、認知症の人への接し方に気を付けることや、介護する家族の立場や苦労を理解し応援できる味方が必要です。
長寿介護課では認知症サポーター養成講座を随時開催しています。平成 29 年 3 月末時点で 1,245 人の方が養成講座を受講されています。お住いの地域や職場、ＰＴＡ活動等で認知症の人への接し方などを学んでみませんか？お気軽に長寿介護課へお問合せください。

オレンジリング▶
認知症サポーター養成講座受講者に
渡されるオレンジ色のリストバンド

消費生活センターだより

問 松浦市消費生活センター　☎内線 180、直通 72-1861

リコール製品による火災などの事故防止について

冬の寒さが徐々に厳しくなるにつれて、暖房機器を利用する機会が増えてきますが、平成 22 年度以降、消費者庁には暖房機器などに関する火災等の重大事故の報告が数多く寄せられています。このうちの一部は未対応のリコール製品に関する重大事故とされています。
ご自宅で保有している暖房機器がリコール対象製品かどうかは、消費者庁のホームページにて確認いただくか、消費生活センターへお問い合わせ下さい。対象製品をそのまま使い続けると、**火災などの重大な事故**を引き起こすおそれがあり、大変危険です。
また、暖房機器以外の**パソコン・携帯電話用充電器・加湿器・台所用機器・消火器など**のリコール情報についても、万が一に備え、家庭内の製品の安全を確認してみましょう。
製品の回収情報や事故情報などのリコール情報は次の方法により入手できます。

- **消費者庁「リコール情報サイト（http://www.recall.go.jp）」**
  （消費者庁のリコール情報メールサービスへの登録も行うことができます。）
- **事業者のホームページ、新聞の広告欄や折り込み広告など・**

もし事故が起きたら、状況をできるだけ詳しく記録し、製品やケガの程度を写真に撮るなどの証拠を保存してから販売店やメーカーに連絡しましょう。
情報を伝えることで、他の事故防止に役立てることもできます。
※リコールとは、事業者が製造、販売あるいは提供した製品について何らかの欠陥、不具合、品質上の理由などにより、製品の回収・交換、無償修理・点検、注意喚起を行うものです。

※おかしいなと思ったときは、消費生活センターにご相談ください。

「平成 29 年度全国学力・学習状況調査」の結果概要

問 学校教育課　☎内線 347

4 月 18 日、小学校第 6 学年および中学校第 3 学年を対象にした「全国学力・学習状況調査」（国語、算数・数学の教科に関する調査と学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する質問紙調査）が実施されました。本市からは、203 人の児童および 185 人の生徒が参加しました。8 月末に公表された結果の中から、本市の状況の一部をお知らせします。

＊この調査は、学力のすべてを測定したものではありません。

	学力調査	質問紙調査
成果	【小学校】 国語…物語を読み、叙述を基に自分の考えをまとめることができています。 算数…高さが等しい平行四辺形と三角形について、底辺と面積の関係を理解しているなど、図形に関することについて全国平均を上回っています。 【中学校】 国語…楷書と行書の違いを理解することが、全国平均を大きく上回っています。 漢字を書いたり読んだりすることについては、概ね良好です。 数学…見取図に表された立方体の面上の線分の長さの関係を読み取ることについて、全国平均を上回っています。	○小・中学校ともに、地域行事に参加している児童・生徒が多いです。 ○小・中学校ともに、地域社会などでボランティア活動に参加している児童・生徒が多いです。 ○小・中学校ともに、「算数・数学の勉強は大切である」「算数・数学の学習を普段の生活の中で活用できないか考えている」と回答した児童・生徒が多いです。 ○小・中学校ともに、昼休みや休日に図書館を利用する児童・生徒が多いです。 ○小学校では、普段の日の 1 日当たりのゲーム等の時間が 1 時間程度で抑えられている児童が多いです。 ○中学校では、家で、学校の授業を復習している生徒が多いです。
課題	【小学校】 国語…目的に応じて、文章の中から必要な情報を見つけて読むことに課題が見られます。 漢字を書くことについて全国平均を下回っています。 算数…小数の乗法において、整数に置き換えて工夫して計算できることについての理解に課題が見られます。 【中学校】 国語…場面の展開や登場人物などの描写に注意して読み、内容を理解することに課題が見られます。 数学…方程式の解の意味の理解と問題を解くことに課題が見られます。	○小・中学校ともに、今回の問題について、「解答時間が十分でなかった」と回答した児童・生徒が多いです。（小学校･･･国語･算数ともに B 問題、中学校･･･数学） ○小学校では、家の人と学校でのできごとや将来のことについて話す児童が少ないです。 ○小学校では、外国の人と友達になったり、外国のことについてもっと知ってみたいと思う児童が少ないです。 ○中学校では、「400 字詰原稿用紙 2 ～ 3 枚の文章を書くこと」について難しさを感じている生徒が多いです。
改善策	○今回の結果をもとに、すべての小・中学校で作成している「学力向上に向けた取組の実践」を活用し、児童・生徒が「わかった」「できた」と言える授業づくりを推進します。 ○アクティブ・ラーニングの視点に立った主体的・対話的で深い学びのある授業をとおして、思考力･判断力･表現力を育みます。 ○小学校第 2・3・4 学年および中学校第 1 学年を対象にした「松浦市学力調査」を実施し、児童・生徒一人一人の課題に　応じた個別指導を充実させます。 ○学校図書館の充実を推進し、読書環境・学びの環境を整えます。	○学校・家庭・地域が一つになって、地域の子どもを地域で育てる、子どもに夢・憧れ・志を持たせる取り組みが必要です。 ○ 2 年間推進してきた、「生活習慣マネジメント・サポート事業」の効果があり、生活習慣の改善が見られました。学校と家庭が連携した生活習慣や学習習慣の定着を図る取り組みを続けることが大切です。 ○小・中学校ともに、教育活動全般において、困難なことにも立ち向かう精神を育て、未来を生き抜く子どもの育成に努める必要があります。